

平成 23 年度第 1 回現地調査概要

このたびの調査では、太湖の林屋洞天、第八大洞天の茅山、第五大洞天の青城山、第一大洞天の王屋山を調査した。残念ながら、調査参加者の日程が調整できず、分担して調査することになった。林屋山は横手、茅山は横手・土屋・森（研究協力者）、青城山は二階堂・土屋・森、王屋山は大形・山下・土屋という参加者である。

【日程】（平成 23 年、2011 年）

8 月 8 日（月） 横手が成田から南京経由で蘇州入り。

9 日（火） 横手が林屋洞を調査。

10 日（水） 横手が蘇州の関連文物を調査。この調査については、本誌第 2 号の横手裕「林屋洞天調査記」を参照のこと。

11 日（木） 土屋と森が成田から上海虹口経由で南京入り。横手と南京で合流。

12 日（金） 横手・土屋・森が 8 時 20 分に車で出発、茅山入口に 9 時 50 分に到着。その後、楊世華道長にインタビュー。老子像と関連施設、華陽洞、仙人洞、大茅山上の九霄万福宮などを調査。

13 日（土） 同じく車で茅山へ向かい、乾元観、二茅山頂、三茅山頂、玉晨観跡地を調査。この両日の調査については、本誌の「第八大洞天句曲山洞の現況と考察」を参照のこと。

14 日（日） 横手が南京から空路で帰国。土屋と森は南京から成都へ空路で移動。

15 日（月） 二階堂・土屋・森が成都で合流、青羊宮を調査。四川省社会科学院で李遠国氏と面談、李遠国氏の案内で原道博物館を調査。原道博物館の概況については、本誌の二階堂善弘「四川原道文化博物館紹介」を参照のこと。

16 日（火） 二階堂・土屋・森が青城山洞天の朝陽洞、祖師殿、天師洞な

どを調査。青城後山へアプローチしたが時間不足で断念。

17日(水) 土屋・森が四川省博物館を調査。その後、大邑県経由で青城後山へ、薛仙洞へアプローチして場所を確認。二階堂は別の調査に移る。

18日(木) 森は成都から空路で北京を経由して帰国。土屋は成都から鄭州へ空路で移動。鄭州で山下と合流。鄭州から濟源まで車で約3時間を移動。山東省泰安から列車で移動してきた大形と濟源で合流。以下、濟源は大形・山下・土屋で調査。

19日(金) 濟源市文物局の馮軍氏の案内で、沁陽市の二仙廟(静応廟)、濟源市内の大許二仙廟、濟瀆廟、奉先觀を調査。

20日(土) 同じく馮軍氏の案内で、玉陽万寿宮、靈都万寿宮(玉真觀)、玉溪、平陽洞、清虚觀、孫思邈墓、玉清宮、閔帝廟、柏林長春觀、清真觀を調査。

21日(日) 同じく馮軍氏の案内で、陽台宮・迎恩宮・紫微宮・無生老母廟を調査、王屋山天壇への登頂をめざしたが雨天のため断念、王屋山地質博物館を調査、下山後に濟源市博物館を調査。当日の調査については、本誌「第一大洞天王屋山洞の陽台觀と紫微宮の現況」を参照のこと。

22日(月) 濟源から車で鄭州へ移動し、空路で北京へ移動。山下は瀋陽へ移動。

23日(火) 北京にて資料購入。大形と土屋は王宗昱氏および李松氏(研究協力者)と打ち合わせ。

24日(水) 大形は北京から大阪へ、土屋は成田へ帰国。

* 8月12日の調査では、南京大学文學院の楊弋枢氏の協力を得た。記して謝意を表したい。

* 8月15日の調査では、四川省社会科学院の李遠国氏の協力を得た。記して謝意を表したい。

以上(文責 研究代表者)